

# 新型コロナ感染拡大防止対策緩和後の他者の行動に対する意識

## －不快感と許容に着目して－

高橋希・星愛美



### 問題と目的

#### <着想の経緯>

新型コロナウィルスの流行により、生活行動様式が大きく変化した  
→マスクをしていない人を冷たい目で見てしまう、マスクを忘れて歩いていると冷たい視線を浴びる経験  
➢ コロナ禍という状況ならではの不快・迷惑だと感じる行動がある？

#### <先行研究>

- ①社会考慮が高い人ほど迷惑行為を放任しない(吉田他,1999)
- ②新型コロナウィルスのリスク認知、情報接触頻度が高い人ほどコロナに対して不安を感じている(安藤他,2022)

#### <本研究の目的>

厚労省が定める感染拡大防止対策に**反した行動**または厚労省が当初示した対策のうち2022年9月までに**緩和された行動**を他者が行った時、  
**(1)いずれの場面のほうが不快と感じるのか、許容できないのか、**  
**(2)緩和行動場面では、どのような要因が許容に影響するのか、**を検討する

### 予備調査1

目的：本調査で使用する不快行動を選定

- ➔ 得られた56件の回答をKJ法を参考に分類
- ➔ 一定の基準を設け、本調査で使用する不快行動を選定

### 予備調査2

目的：知識問題の作成にあたり、正答率について調査

- ➔ 厚労省が公開している感染対策を参考に問題を作成
- ➔ 各問題についての正答率を確認後、修正

### 本調査

- 調査方法：質問紙調査
- 調査時期：2022年11月中旬
- 調査対象者：宮城学院女子大学に在籍する学生120名

#### ● 調査内容

- ①コロナ禍の不快行動尺度(予備調査1より；**NG行動場面2項目、緩和行動場面8項目**を独自に作成)  
→不快行動に対して、**不快度(感情)**と**許容度(行動)**の2側面を尋ねた
- ②情報接触頻度尺度(安藤他,2022)：「新聞」「テレビ」などに「他者との会話から」を独自に追加
- ③新型コロナウィルスのリスク認知尺度(安藤他,2022)
- ④社会考慮尺度(吉田他,1999)
- ⑤知識問題(予備調査2より；厚労省が公開している情報に基づき、独自に作成)

ex)

**NG行動場面**：公共交通機関に乗車中、マスクを着用せずに乗車してきた人がいた  
**緩和行動場面**：街中を歩いている時、ランニングしている人や通勤中の人々がマスクをしていなかった

### 結果 ①

#### <NG行動場面と緩和行動場面の不快度と許容度の差>

NG行動場面と緩和行動場面の差を検討するために、対応のあるt検定を行った

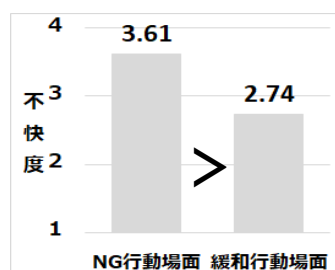


図1.不快度の差

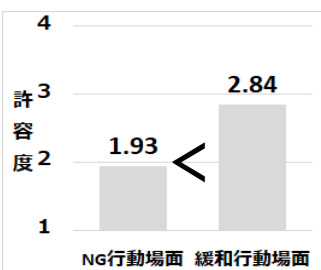


図2.許容度の差

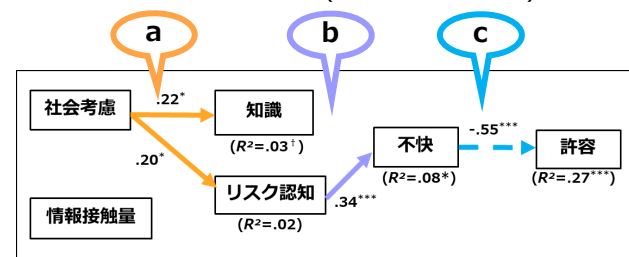
緩和行動場面に比べて、**NG行動場面の方が不快度が高い**  
( $t(118)=24.82, p<.001$ )

緩和行動場面に比べて、**NG行動場面の方が許容できない**  
( $t(116)=21.17, p<.001$ )

### 結果 ②

#### <許容に影響する要因(変数間の関係)>

許容に影響する要因を検討するために、**緩和行動場面**の回答を用いて階層的重回帰分析(ステップワイズ法)を行った

注1) \*\*\* $p<.001$ , \* $p<.05$ , + $p<.10$ 

注2) 実線は正の関連、破線は負の関連を示す

図3.階層的重回帰分析の結果

社会考慮の高い者ほど知識問題の得点が高く、新型コロナウィルスのリスクを高く評価している

新型コロナウィルスのリスクを高く評価している者ほど、緩和行動場面でもより不快を感じる

緩和行動場面では、不快を感じる者ほど、許容できない

### 考察

#### 1.NG行動場面と緩和行動場面の比較

ルールが緩和されることで、人々の認識そのものが変わることで、また、周囲でその行動をとる人が多くなった可能性が考えられる

➢ 他者の行動に対して敏感に反応しなくなる

#### 2.許容に影響する要因

感染対策が緩和され、個人での感染対策が重要となっている現在、いつでも感染してもおかしくない状況であると考えられる

➢ 緩和された行動であっても、不快に感じれば、他者の行動による感染を避けようとする行動することになるだろう

しかし